

No. 157

Tiara

看護情報誌ティアラ 2025 年 10 月

Nursing 最前線●

国立大学法人 大阪大学医学部附属病院

学生から現役看護師まで

キャリアの実現を

多角的に支援する

看護ユニフィケーション

SCOPE

ナースフェス2025 DXセミナー

アセスメント力向上セミナー 心電図編

↳ VPC から考える報告のコツ

TOPICS

看護教育の現場で浸透するシミュレーション研修

その運用の実際とメリットとは

↳ 東京医科大学病院シミュレーションセンターに聞く



学生から現役看護師まで キャリアの実現を 多角的に支援する 看護ユニフィケーション

国立大学法人 大阪大学医学部附属病院

大阪大学医学部附属病院看護部では、2004年にキャリア開発センターを設立し、研修プログラムの提供などによる看護師のキャリア開発を推進。2022年からは、看護ユニフィケーション^{*1}に主眼を置いた体制にシフトし、大阪大学医学部保健学科との連携をより強化したかたちで、継続した人材育成とキャリア支援をスタートさせています。そんな同センターの取り組みについて話を聞きました。



1

学習スタイルの変化を受け 新たなキャリア支援を導入

ライフスタイルの多様化、教育分野でのオンラインやオンデマンドの浸透を受け、大阪大学医学部附属病院看護部キャリア開発センター（以下、センター）は機能の見直しを図りました。「研修プログラムの提供だけでなく、看護師一人ひとりに寄り添ったキャリア支援により注力すべきだと考えました」と副院長兼看護部長でセンター長も務める岩崎朋之さんは話します。そして、センターが培ってきた大阪大学医学部保健学科（以下、保健学科）や地域との連携を一歩進んだかたちの人材育成につなげるため、保健学科に働きかけを行ったといいます。

「看護ユニフィケーションの提案をしました。医

療人材が不足する現状のなか、志をもって保健学科で頑張っている学生たちを、その彼らの未来につながる病院の看護師たちを、互いの敷居を超えてサポートしていきませんか」（岩崎さん）

先駆的な施設からの情報収集、自分たちの特性を生かした取り組みや人事交流のルールづくりなど、2022年から2年間は主に看護ユニフィケーションの実施に向けた土台づくりが行われました。

そして2024年、新たな取り組みがスタートしました。学生と病院看護師をつなぐ「ユニフィケーション・カフェ（以下、ユニ・カフェ）」を実施する一方、2023年から看護師がキャリアを考える機会として行っていた「キャリアカフェ」についても、病院看護師と保健学科教員をつなぐ新たなプログラムを組み込みました。



2



3



4

1. ユニ・カフェにはさまざまな病院看護師が参加。大学内での交流であるため学生たちも緊張せずに疑問・質問を投げかけられたようだ
2. 岩崎朋之副院長兼看護部長（看護部キャリア開発センターセンター長）
3. 松本留美看護師長（看護部キャリア開発センター副センター長）
4. 樺山舞教授

^{*1}「ユニフィケーション」は「統合」などの意味をもつ語で、看護分野では「看護（連携型）ユニフィケーション」として、病院と大学など異なる組織が連携し、臨床と教育の乖離を解消して、臨床看護と看護教育双方の質向上を図る。 ^{*2}看護実践報告や看護研究、学会発表などに取り組む看護師は、センターに申請すればセンター専従看護師（松本さん）や保健学科教員による指導やサポートが受けられる。 ^{*3}地域の訪問看護ステーションと提携し、病院看護師が1日を通して実際の訪問看護を体験できる仕組み。



5. キャリアカフェでは保健学科の教員たちに質問や相談ができるプログラムを新たに導入。初回は3日間計5回に分けて行われ、病院看護師たちは知りたい分野の専門家を選んで参加していた
6. 看護部キャリア開発センターのメンバー。ユニ・カフェ参加者と一緒に
7. 2024年度には2回(2024年8月、2025年1月)のユニ・カフェが実施された
8. 第2回ユニ・カフェの様子。テーマは「看護師のキャリアを知ろう」。大学院生の参加もあった

病院と保健学科の人材が 相互に学び合う交流を実現

ユニ・カフェでは、看護部長から病棟看護師まで所属を異にする病院看護師と保健学科学生が、採用試験対策や看護師のキャリアなどのテーマで交流を図りました。センター運営委員会のメンバーである大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻教授の樺山舞さんは「学生たちは、ユニ・カフェのなかで授業では体験できないものに出会いました。たとえちょっとした一言であったとしても、彼らがそれを心に留めることが、未来への動機づけや自身の目指すものにつながっていくのだと思います」と話します。

キャリアカフェでは、保健学科教員がそれぞれの専門分野を生かし、病院看護師たちの疑問・質問に答えました。この際、キャリアカフェが次のステップへの可能性を探る場になり得ること、「教員に会いたい、話したい」という思いをもつ看護師が少なからずいることが示されました。保健学科教員は、「看護研究・看護実践報告支援*2」の指導も行っており、病院看護師の報告・研究の質向上にも一役買っています。看護師長で副センター長(専従)の松本留美さんは「このような体験が臨床看護師の科学的根拠に基づいた看護実践への意識を高めるのではないかと考えています。大学院を目指す道につながるかもしれませんね」と期待を寄せました。

新たな取り組みも進行 看護師のキャリアを地域で支える

また、地域と連携した「1日訪問看護体験*3」や「(民間病院との) 人事交流*4」も始まっています。継続看護に生かすために、あるいは今後のキャリア

の選択肢として、地域を体験したいという病院看護師を支援する取り組みです。「現在は病院から地域へという流れですが、将来的には双方向の交流にできればと思っています」と岩崎さん。参加者の満足度は高く、地域で得た経験を今後の看護実践やキャリア設計に役立てたいと話しているそうです。

「仮に病院から地域へと進路を変更したとしても、それはその人が選択したキャリア。私たちはその人の看護師としてのキャリアを支援していきたい。優れた人材を地域全体で育成し共有するという考え方がこれからは必要だと思っています」(岩崎さん)

同院の看護師たちは、臨地実習*5の際学生を将来の仲間として受け入れているといいます。着実に進む看護ユニフィケーションの取り組みは、このような文化に裏付けられているのかもしれません。



DATA

大阪大学医学部附属病院

大阪府吹田市山田丘2-15
<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>
 開設 ●1869年 病床数 ●1086床
 職員数 ●2950名 うち看護職員1129名
 (2025年5月現在)

看護体制 ●一般病棟7:1

日本医療機能評価機構認定病院/特定機能病院/大阪府災害拠点病院/大阪府総合周産期母子医療センター/大阪府肝疾患診療連携拠点病院/大阪府難病診療連携拠点病院/大阪府小児がん拠点病院/地域がん診療連携拠点病院

*4 病院に籍を置いたまま、急性期、回復期リハビリテーション、療養、緩和ケアなど、地域民間病院で多様な病棟業務を体験することができる。期間は1年間~最長2年間。

*5 臨地実習の受け入れ環境の整備は看護教育支援室が行っている。



ナースフェス2025 DXセミナー アセスメント力向上セミナー 心電図編 ～VPCから考える報告のコツ～

看護師向けイベント「ナースフェス2025」（主催：株式会社エス・エム・エス）においてDXセミナー「アセスメント力向上セミナー 心電図編～VPCから考える報告のコツ～」(2025年5月17日 東京都渋谷区・渋谷ヒカリエ／共催：ニプロ株式会社)が行われました。受講者は、年齢、性別、看護歴などが異なる看護師たち。講師の青柳智和先生が、アセスメント力を軸にこれからの看護師に求められるものについて話しました。その内容をレポートします。

心室性期外収縮（VPC）の波形から 看護師が読み取るべきもの

講演は座長を務めた若本恵子先生（虎の門病院副院長兼看護部長）の挨拶でスタート。講師の青柳智和先生（株式会社ラプタープロジェクト代表取締役／水戸済生会総合病院特定行為研修責任者）は、まず演壇のスクリーンに心電図の波形を映し出し、会場に向けて「この波形は何ですか」と問いかけました。受講者たちはスマートフォンでアンケートに回答。結果はリアルタイムで集計され、77%が「心室性期外収縮（VPC）」と回答しました。

「この波形はVPCという異常が起きていることを示しています。まずこれを読み取れるのは必要なこと。患者さんに今何が起きているのかわかります。ただ、そこから先どのようにアセスメントを組み立ていくかが看護師には重要。VPCが生じた理由やその先の可能性について、アセスメント、つまり評価するということです」と青柳先生。そのためには「要求」と「要件」の違いを意識してほしいといいます。「例えば、必要に迫られて身体抑制が行われている患者さんから『外せ』（要件）と言われた場合、なぜ外してほしいのかを問いただしたら『背中がかゆい（のでかいてほしい）』（要求）」ということがわかるかもしれない。この場合、要件は医師の判断が必要な内容なので、すぐに満たすのは難しい。しかし、要求であれば看護師の対応で満たせます。そうすれば患者さんが抱える問題は解消されます」と話し、目の前の事象だけでなく、その向こう側を

- 類推する姿勢が看護師には求められるとしました。
- VPCが起こったとき、何をアセスメントして、どのように医師へ報告するか、青柳先生はSBAR*1に基づいてみていきました。このなかで独自に考案したC3-R2法も紹介。C3-R2法とは、SBARを活用する際に、3つのカテゴリ（現病歴、バイタル、身体所見）と2つの提案（来て欲しいか、初動）をあてはめることで、医師の診断に役立つ情報を提供できるようにしていくものです。
- 「VPCの原因の予測につながる情報を伝え、採血などのオーダーを促します」（青柳先生）

看護師の役割を見直すことが 医療の質向上にもつながる

- ここで青柳先生は、プロトコルが整備されていれば、医師への情報提供の時点で看護師が採血データを示し、診断を早めることができるとしました。日本看護協会による「看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト／シェアに関するガイドライン及び活用ガイド*2」では、「大学院において高度な看護実践についての教育を修了している等の看護師が行う」という条件付きで、事前に取り決めたプロトコルに基づいて、看護師が薬剤の投与、採血・検査を実施することを可能としています。「特定行為研修もその教育に含まれると考えられ、水戸済生会総合病院では特定行為研修を修了した看護師が検査プロトコルにより採血を実施しています」と青柳先生。
- さらに「採血やX線検査、尿検査など少し時間を要する検査を看護師が行えるようになれば、診断は早



【座長】
虎の門病院
副院長兼看護部長
若本恵子先生



【講師】
株式会社ラプタープロジェクト
代表取締役
水戸済生会総合病院
特定行為研修責任者
青柳智和先生

まり、医療の質が向上すると思います」と述べ、そのためにはタスク・シフト／シェアを進めることも必要だと訴えました。

タスク・シフト／シェアには業務の見直しと整理が求められます。例えば、電子体温計・自動血圧計による体温・血圧測定、パルスオキシメーターの装着はほかの職種が行い、看護師はバイタルサイン測定の必要性やデータをアセスメントするなどの業務の整理を行います。青柳先生は、この場合ITやDX*3も選択肢の1つだといいます。

そして、看護業務の効率化を図るための例としてHN LINE®（医療機器データ通信サポートシステム／ニプロ株式会社）を挙げ、その仕組みを紹介。電子カルテ等とのデータ連携やNEWS（急性期疾患の予後予測スコア）の自動評価などの機能を取り上げ、なかでもNEWSはそのリスクが数値で表示されるため対応の基準にしやすいとしました。

特定行為がスタンダードとなるよう 看護師の関心の高まりに期待

このように看護師に求められる役割が変化していることを受け、青柳先生は講義の最後に受講者に向け、特定行為への関心についてアンケートを行いました。特定行為の仕組みについて意見を求められた若本先生は、自身が入職した頃とは医療現場の常識が大きく変化していると話しました。

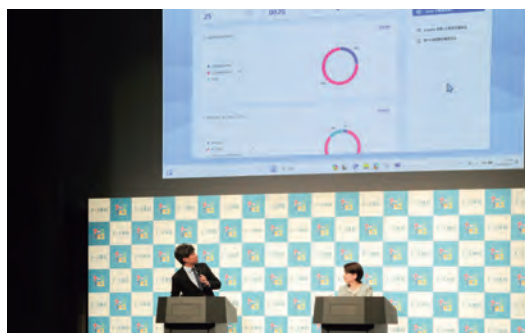
「かつては、現場の臨機応変さを許容するような、いわゆる曖昧な部分が広がったように感じます。ですから、現在のように特定行為として制度化され、ガイドラインをもってスタンダードになっていくことは重要なことだと思っています」（若本先生）

特定行為研修修了者は1万名超*4を数えると青柳先生。「会場内にも今後研修を受けたいと考えている人がいました。看護師の役割が拡大する流れのなか、多くの看護師が特定行為に関心を持ち、徐々にでも準備を始めることに期待しています」と述べました。

若本先生は「とても実践的な内容で、新たな視点もありました。明日からでも役立てていきたいものです」と講義を結びました。



会場を埋めた看護師たちは、臨床での看護師の報告にはどのような力があるのか、その講義の内容に聞き入っていた



講義の冒頭ではリアルタイムでアンケートを実施



特定行為研修修了者として臨床での看護も実践している青柳先生。その実感に基づいた話を受講者も引き込まれる



講義の内容に熱心に耳を傾けていた若本先生。結びの言葉には共感うかがえた



講義の最後に意見を交換し合う両先生

*3 保健・医療・介護を進める各段階において発生する情報やデータについて、業務やシステム、データ保存の外部的・共通化・標準化などを図ることで、国民自身による予防を促進し、良質な医療やケアを受けられるような社会や生活の形を変えること。 *4 2025年3月時点で1万1840名（厚生労働省）。

看護教育の現場で浸透するシミュレーション研修 その運用の実際とメリットとは ～東京医科大学病院シミュレーションセンターに聞く～

2011年に示された「新人看護職員研修ガイドライン」（厚生労働省）の後押しなどもあり、いまや看護教育では欠かせないプログラムとなっているシミュレーション研修。模擬的な環境のなかで、実践スキルや適切で効果的な対応を習得し、臨床での安全な医療の提供を目指すものです。そんな研修の専門施設である東京医科大学病院シミュレーションセンターではどのようにシミュレーション研修に携わっているのか話を聞きました。

シミュレーション研修は さまざまなケースで実施されている

東京医科大学病院シミュレーションセンター（以下、センター）は、2004年に開設された卒後臨床研修センターのクリニカル・シミュレーション・ラボがその前身。当初は研修医の入職時の利用が主でしたが、その後院内に向けてのシミュレーション研修の普及にも取り組み、他の職種も含む多くの職員に利用されるようになりました。そして2014年、病院敷地内に建設された教育研究棟に移転し、新たに独立した部門としてスタートしました。

センター長の阿部幸恵さんは、2006年から5年間ラボの管理者を務めた後、招かれて外部のシミュレーションセンターの立ち上げに携わり、センター始動の前に同院に復職、現職に着任しました。

センターは、卒後臨床研修センター、生涯教育センターとともに院内の教育部に設置されています。職員の実践力やチーム医療の質を上げることを目的に、医師や看護師だけでなく、院内の全職種に向けてシミュレーション研修を実施する部署として生まれ変わりました。発足当時から全職種のためのシミュレーション教育の企画を積み重ね、現在では、事務職員の接遇やマナーのシミュレーション、看護部

のラダーに組み込まれた研修の講師、卒後教育研修センターとともに各科持ち回りの研修医のためのシミュレーションを実施。さらに、安全管理室と連携してのCVライン挿入の研修、ライフサポート教育部会と連携してACLS・BLS、ICTCを行うなど、多様なシミュレーション研修を展開しています。シミュレーション研修が積極的に導入されている基礎教育でも、医学科や看護学科のシミュレーション授業の支援、姉妹校の東京薬科大学とのシミュレーションによるIPE*に携わります。近年では、訪問看護師対象の企画・運営にも着手しています。

「このようにシミュレーション教育を効果的かつ継続的に行っていくには指導者養成が重要です。センター発足以来、継続的に指導者養成の研修を継続しています」（阿部さん・冷水さん）

この結果、センターの利用者は、院内外を合わせて年間延べ6000名に上るまでになったそうです。

「自ら動いて学ぶ」が基本 シミュレーションによって磨かれるもの

2024年に施行された医師の働き方改革に伴い、多くの現場でタスクシフト／シェアが進められていますが、シミュレーション研修はここでも活用され



阿部幸恵センター長



冷水 育助教



シミュレーションセンター事務室に掛けられた予定表。スケジュールがびっしり書き込まれている

*interprofessional educationの略。専門職連携教育のこと。



取材当日に行われていた「新入職者CPR+AEDプロバイダーコース」の研修の様子。受講者以外に多くのファシリテーターが参加し、シミュレーションによる研修を実施する



倉庫には必要な備品等がシチュエーション別に可動式の棚に収納されている



センターが携わっているさまざまな研修のフライヤー

ています。例えば、看護師が医師の業務の一部を負担する場合、手技や手順を身につけるだけでなく、異なる状況下でも安全・確実に業務を実施できるスキルが必要です。それを補うのがシミュレーションによるトレーニング。臨床で考えられるさまざまな状況を疑似体験し、その対応を学ぶことで臨床での実践を可能にします。

「シミュレーション研修では、反復トレーニングで技術・知識を、状況を設定したトレーニングで対応の仕方を身につけます。安全を担う目的以外に、医療における価値観やふるまいにも磨きをかけられるところがシミュレーション研修のおもしろいところでもあります」（阿部さん）

シミュレーション研修は、受講者自らが動いて考えるという学習スタイル。学ぶ意欲を高めてくれる研修といえるでしょう。

「だからこそ受講者は関心がもてるし、何より楽しい。これが、自立して考える医療者を育てます」（阿部さん）

センター助教で診療看護師管理室室長の冷水育さんは、次のように話します。

「当院ではシミュレーション研修を長く続けてきたので、スタッフは自ら動くという素養を身につけ、院内にもそういう風土ができてきたように思います。コロナ禍でクラスターを起こすこともなく、職員が落ち着いて対応できたのも、感染管理のシミュレーション研修を続けてきたことの賜物。臨床現場がよくなれば、それが患者さんに還元されるということがわかります」

現在阿部さんと冷水さんが特に着目しているのは現場の指導者の育成。「院内の各所に指導者がいる

環境ができれば、センターのスタッフがいなくても研修ができる。部署内での企画も可能になり、臨機応変にシミュレーション研修が実施でき、OJTでの応用も見込めます」と話します。

社会環境を見据えて 教育もアップデートが必要

人口減少やDXの推進など、近年社会環境は大きく様変わりしています。

「教育は社会の変化に応じて変わっていかなければなりません。社会の情勢や新たな動き、文化も含めて学び、身につけてきた学生が、いざ看護師になったら、現場では業務の仕方や学習方法がアップデートされておらず、戸惑い、やがて意欲をなくしていくというケースもあります。管理者をはじめ、現場の医療者は、専門分野以外にも広い視野を向け、関心を高め、そこで得たものを自らの現場に落とし込むという姿勢が必要だと思います」（阿部さん）

教育は「相手にどうやって教えるか」ではなく「相手がどう学んでいくかを育むこと」だと阿部さんはいます。シミュレーション研修は、自ら考え、取り組み、振り返ることをサポートするものです。受講者がそこで繰り返して学びとったことは、臨床現場でも生かすことができるのだとか。まさに学び方を育む研修なのかもしれません。

東京医科大学病院 シミュレーションセンター

東京都新宿区西新宿6-7-1

<https://team.tokyo-med.ac.jp/sim-c/>

Let's 看護 みかき

看護の学びに
役立つ情報を紹介します

vol.20



患者が死を意識したときに現れる「思い残し」が視える看護師・卯月咲笑。長期療養型病棟でさまざまな思いを抱える人々と命に寄り添いながら看護に奮闘する。がん看護専門看護師を目指して大学院に進学した卯月は、無事卒業して臨床に復帰。新たな気持ちで看護と向き合うが、自身の検診で再検査の通知が……。元看護師の著者が記すシリーズ最新刊。

命の交差点 ナースの卯月に視えるもの

秋谷りんこ 著
文藝春秋
825円(税込)

ナースが地域の自慢のおみやげをご紹介します！

＼自慢の／

今回の推薦者



宇治徳洲会病院
看護部長
北川きよみさん

おみやげ Collection

vol.20
京都府

挽きたて抹茶の贅沢テリーヌ



濃厚な抹茶の味わいとなめらかな口触りで、現在の私のナンバーワンスイーツです。口に広がるよい香りは応えられません。お土産にも喜ばれています。HPからも購入可能。

1本 7708円／ハーフ 4413円（いずれも税込）

シェ・アガタ 0774-20-6025



携帯情報端末



電子カルテ

データ連携



※一部対応中の内容を含みます。Cocoron は WindowsOS に未対応です。

HN LINE とは？

HN LINE は、離れた場所でも無線通信によって「医療機器情報」を速やかにかつ正確に共有することで患者さんの QOL の向上とリスク管理を行い看護業務の効率化を図り、働き方改革のお手伝いを致します。



この広告に関してのお問い合わせ先

資料請求先  ニプロ株式会社 大阪府摂津市千里丘新町3番2-6号

2024年1月作製